

助成事業実施報告書

団体名 自立援助ホーム たいむ

代表者・役職名 氏名 町屋瑠美子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

発達障害の専門的な研修を実施することで、スタッフの力量を高める。

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

養護施設等の現場で直接支援に汗を流して来られた先生方が、卒園あるいは、退所せざるを得ない子どもたちの居場所を、早急に作らねばならないという切迫した思いで、「つくる会」という学習会を持ち、賛同者を募って、家探し、NPO法人的設立も実行し開設にこぎつきました。(PO法人の設立を実行し、開設にこぎつきました。)

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

自立援助ホームに入居する児童は、年々何らかの精神的な障がいまで、抱えている児童が増加しています。日々、生活援助、就労支援に当たるスタッフは、特性を学んで理解しないと、効果的な支援が出来ない事に、様々な場面で気付かされています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

発達障害等を学ぶ機会を、積極的に見つけて研修を重ね、ミーティングで共有して、当事者にとってより効果的な支援が出来るようにする。専門領域に詳しい小児心療内科の医師をスーパーバイザーとして教えを請い、ケース会議も共有して、スタッフ全員の力量を高める。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

研修に参加したスタッフが学習内容を水平展開して、スタッフ全員が学びを積む事で、当事者の生き辛さを理解する力をつけ、入居者の対応が、穏やかにできるようになってきた。福祉作業所で、半年間就労した男子が、スタッフが面接に同行し、雇用者側に特性を説明することで、一般就労を果たす事ができた。粘り強く支援を工夫する事で、現在も継続出来ている。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

自立援助ホームに入所する児童は、多かれ少なかれ、二次的な発達障害を背負っている場合が多い。スタッフに専門的な知識や理解がないと、日々の生活場面での対処がうまくいかず、本人の生き辛さを想像することもできない。本人との生活を共有しながら、職場やホームでのトラブルを一緒に考えて、乗り越えていくことがとても重要な課題です。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし